

東紀勢線第九工區内 一部線路勾配變更に 伴ふ橋脚繼足工事

鐵道省岐阜建設事務所長

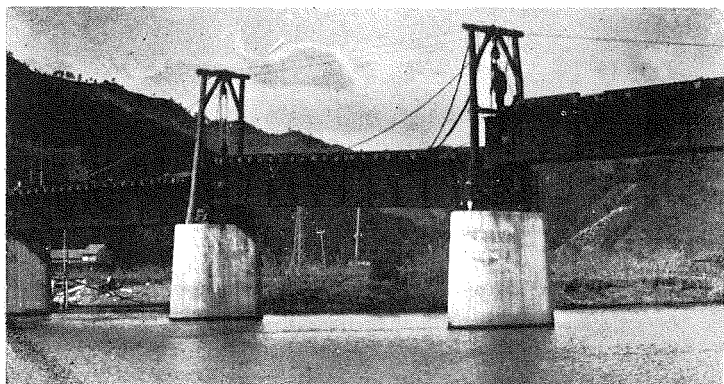
佐 武 正 一

東紀勢線第九工區(紀伊長島三野瀬間)土工
々事は昭和4年3月着手し、同6年9月に至り略

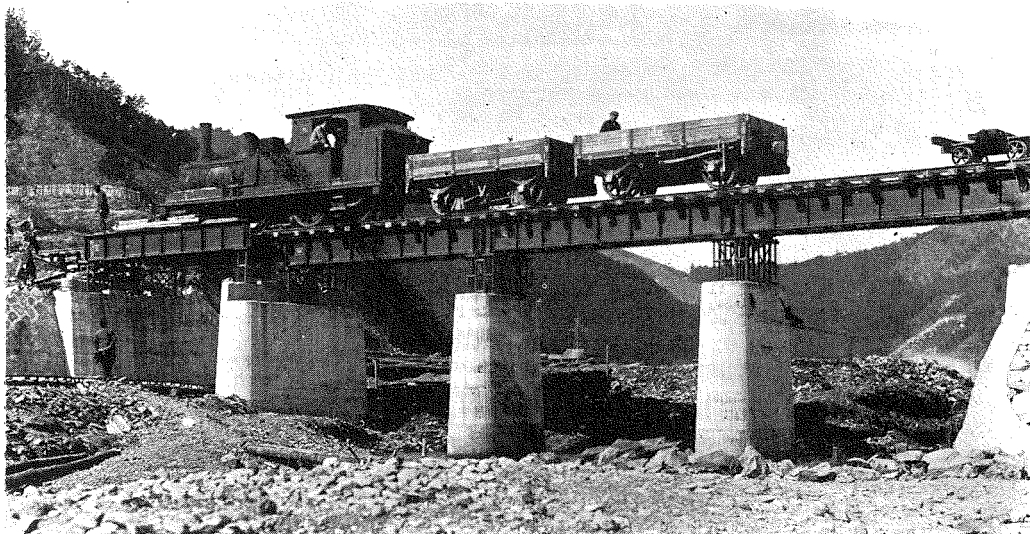
竣功したが、翌10月1日の豪雨に伴ふ未曾有の大出水に逢ひ、三重縣北牟婁郡二郷村及長島町地内赤羽川橋梁附近の線路勾配を變更することとなつた。

同所には40呎五連30呎二連の赤羽川橋梁及20呎三連20呎下路鉸桁一連の赤羽川溢橋等があるが、開業期日促進のため出水直後10月2日軌道工事に着手して、線路勾配變更に先立ち11月15日前記橋梁等を架設して軌道工事を進めた

昭和7年1月線路勾配變更工事の中土工々事は之を請負とし橋脚繼足工事は直營で以て施行し、軌道工事を合せて三工事を並行して行ふこととなつた。



(1) 橋桁扛上工事



(2) 桁受トラス上建築列車
運轉

當初の計畫は建築列車を運轉し得ることを條件として桁受「トラス」を設計して、之を以て桁を扛上し前後には枕木サンドルを用ひて、建築列車を運轉し、土工及軌道工事をすすめ、機會を見て橋脚の繼足混凝土を施行して上記のトラスを包む考へであつたが期日その他の關係よりこの計畫を變更して土工々事の途中に於て一時建築列車の運轉を中止し桁扛上と同時に橋桁の繼足を施工するため急硬セメントを使用することとした

桁を扛上する方法として操重車を用ふることは最も安全且迅速であると思はれたが運賃の關係上他の方法をとることとした。ジャッキ」又は柱と「ウインチ」を併用すること等も計畫されたが、何れも期限安全等の點で思

(3) 橋脚繼足混凝土工事

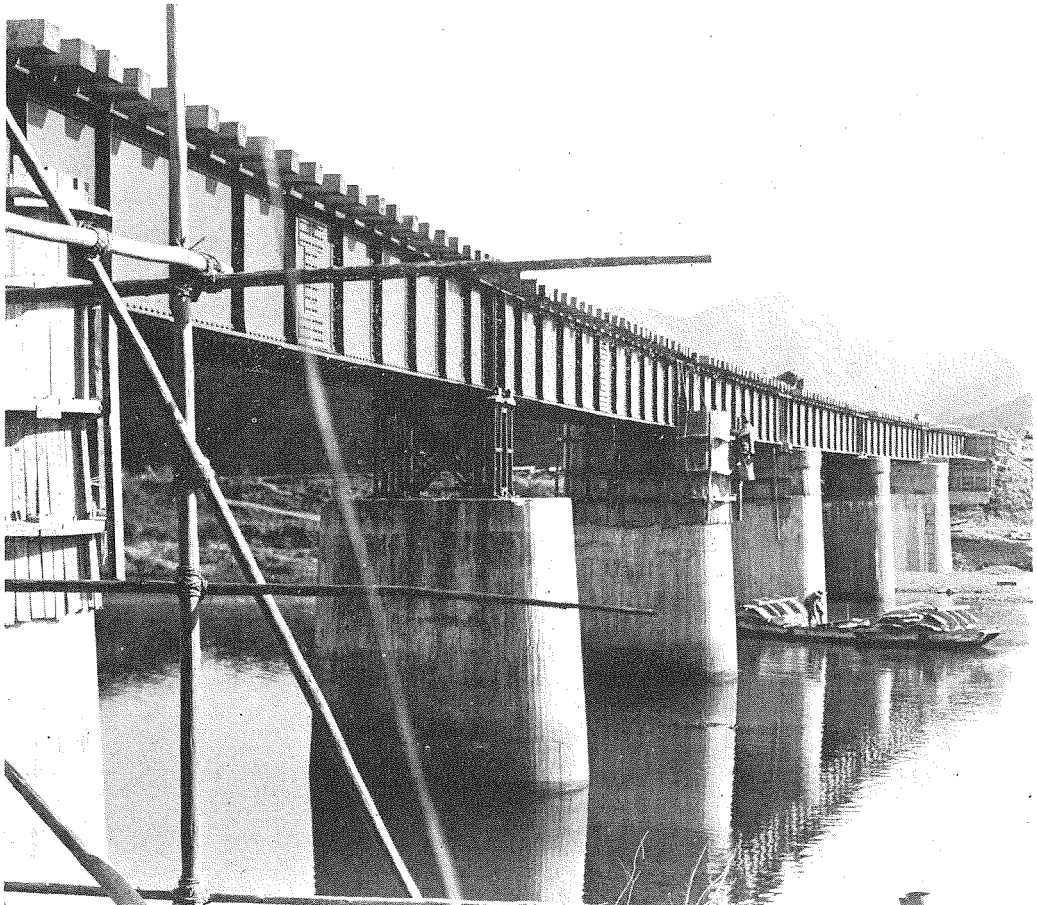
はしくなかつたので結局兩橋脚上に鳥居型木製「トラス」を組み、相互間及桁の方向に支線をとり三重ブロックと手捲用ウインチを用ひ、徑6分の鋼索を以て吊上げた。

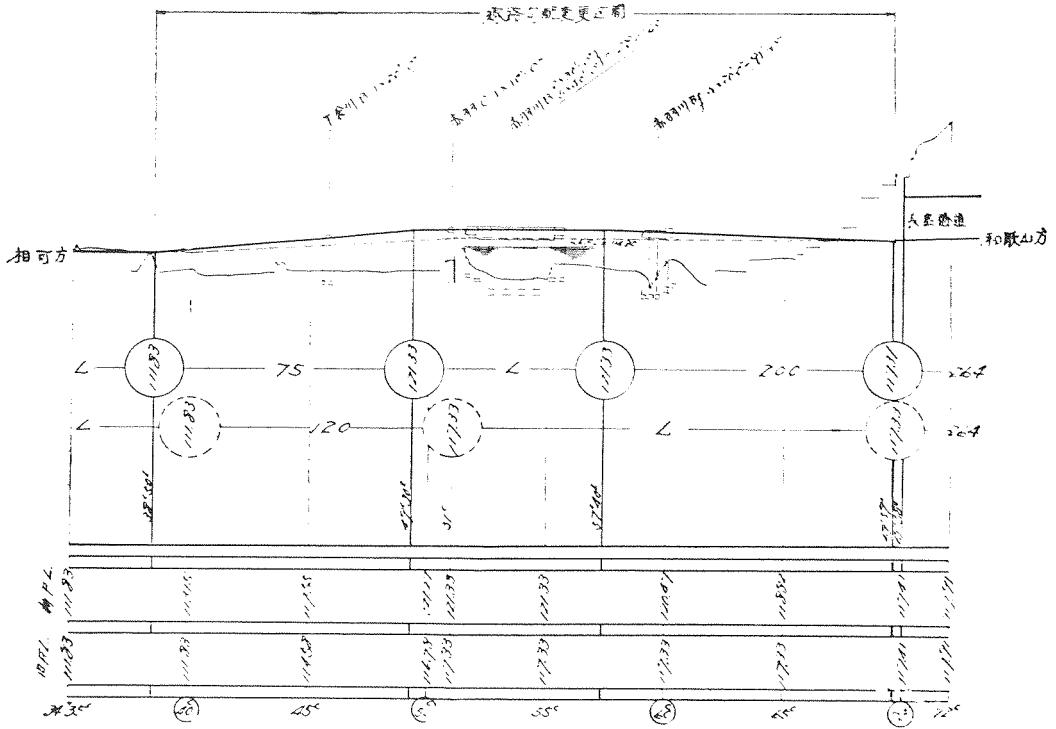
恰度ケーブルエレクトシヨンの逆を行つたわけである。

2月23日に桁の扛上に着手し、3月7日に最後のコンクリートを打終つた。

使用材料及人員

桁受トラス	7噸
セメント(急硬)	400袋
混 凝 土	13立坪
人 夫	420人
大 工	110人
請 負 人	渡邊定次郎





(4) 竣工せる工事全景。

